

## ほのぼの生活

ある日、神奈川県立産業技術短期大学の佐藤さんから連絡があり、「佐藤さん？」と不審に思いながら電話に出ると、聞き覚えのある懐かしい声——能開大時代、女子寮で一緒だった同期のつねちゃんでした。今では姓が変わりお母さんになられたようで、卒業から7年半、時の流れの早さを感じました。そんな私も良きパートナーに出会い、新しい生活を始めたのがつい先日のことのようにです。



主人の社宅に住んで約1年半が経ちました。2階建てで広い庭と駐車場のあるメゾネット型の2DK。築年数が50年と古く、トイレの天井から雨漏りするなど不自由な点もありますが、和室の壁や木枠を塗装したり、古びた床板にタイルカーペットを張ったり、浴槽や洗面台と壁との隙間をシールしたり、サイズがぴったりの収納を探したりして、だいぶ住み心地のよい家になってきました。庭では枝豆や西瓜などの野菜を育てたり、縦の木に飾りつけをしたり、日曜大工でベンチも作りました。

うちにはもう1人、同居人がいます。この界限に以前から住んでいたノラネコの「にゃー」です。主人が毎日、勝手口から餌をあげていたところ、徐々に懐いてきて、いまや2階のソファでぐうたらしている態度の大きい猫です。ノラネコというイタズラ好きで汚いというイメージがありますが、この猫はノラネコと思えないほど毛並みも良く、泣き声もチャーミング、甘え上手で人懐っこいため、我が家の癒し系です。「にゃー」と呼ぶと、眠くて声にならなくても「にゃー」と返事してくれるカワイイ奴です。クシャミを撒き散らすのがたまにキズですが、毎日、ほのぼのとした生活を送っています。

ところがこのたび老朽化によって、このお気に入りの



社宅を離れなければならなくなっていました。11月に取り壊しが決まったそうです。今度の社宅は4階建てのマンションタイプですが、これも築25年と年季が入っているため、また壁の塗装からやり直します。思い出の多い古社宅がなくなってしまうのは本当に残念ですが、新生活をより快適にするために、楽しみながらDIYしたいと思います。

1つ心配なのは、もう1人の同居人のことです。私たちよりも長い間住み続けた古社宅が取り壊され、この一画が再開発されていくことによって、彼女の居場所がなくなってしまうような気がするのです。新居に連れていこうと考えていますが、果たして新しい環境に慣れてくれるでしょうか？



次のリレートークは福島県立郡山高等技術専門校情報制御システム科の有賀先生です。大学の頃、サイクリング部と一緒に走った後輩です。とてもパワフル、それでいて優しく、皆を和ませる力をもった笑顔の素敵な方です。では、よろしくお祈りします。